

タイトル 僕の理想図書館—自然と万人とお洒落と抱き合って—

「コロナ」というよりは新型の病気、災害、それらによる数多の障害、我々はこれからも天の気まぐれともいえる「自然」という大きなものと寄り添っていかなくてはならない。スマホや忙しい日々、そんな「私だけの何か」に呑み込まれていないだろうか。それでは社会や自然というスケールを相手にすることはできないだろうと思う。本は色んなことを語ってくれる。だけど、一冊一冊ではあまりに小さい、「個」である。図書館は、本という小さな個の情報が沢山積もって、私という「個」が他の「個」と身を寄せあって社会を構成するように、やってきた一つの大きな世界。世界、つまり自然の生じる場所。そんなようなことが全ての人に伝わるように、「図書館×自然」というよりも「図書館=自然」を体現できていたらいいなと思い、(小説風に描いたが)筆者という高校生図書館利用者の気持ちと共にデザインした県立中央図書館である。

僕はとある県立高校に電車を通う高校生であるが、学校からの帰りに図書館で自習して行くことが日課である。勉強する場所として図書館は最適だ。静かだし、ちょっと勉強に疲れて館内をフラフラしていると気になる本に出会うこともある。集団自習室の見ず知らずの人が周りにいる環境で勉強すると適度な緊張感があり、人目があるためわざわざマナー違反をするような奴もおらず平穏が保たれる。図書館ってサイコー。

ところで今日はいつもの学校横にある図書館には寄らずに友人とともに放課後、普段は夜に図書館を出てから乗る電車に日が出ているうちから揺られている。なんでも東静岡駅の横に新しくできた図書館に友人が先日行ったというので、どのようなものかと、普段利用する学校横の図書館には行かずに、今日はその図書館に彼の案内で行こうとするのである。

東静岡駅南口を出るとすぐに四階建ての大きな建物が見えた。四階とは図書館にしてはあんまりにも大きく思えたので思わず友人に、「なあ、あれが図書館か。にしてはあまりに大きいぞ。」と尋ねてしまった。建物の特徴的な外見としては、緑のカーテンで覆われた天窓が四階の天井の半分を占め、屋内に日光を取り込んでいるようだ。建物の入り口前には広いテラスがあり、図書館で借りた本を風通しの良いそこで読むや、テラスに生えた木の下で友人を待っているのか、女子高生が何をすることもなく足を伸ばして座ってくつろいでいるのが見えた。そんな光景を横目に見つ、「四階には県立図書館だけが持っているような貴重な資料があんだよ。ここは海が近いからさ、ほら、何、南海トラフだけ。巨大津波が来ても資料が水没しないようになるべく高い建物造ったわけよ。」と友人は先程の僕の疑問に答える。へー、と感心しつつ、図書館の自動ドアをくぐる。

そこで「ねえ、テラスの木の下にいた娘、あの女子高生、超かわいくなかったか。俺のことを待ってんのかな。」と彼が調子に乗った冗談を言うものだから「バカ」と言ってやったのだが、とっさに口を押さえた。しまった少し声が大きかったか。もうここは館内だぞ。静かにせなば……。ってあれ、と僕は驚く。眼前には広いロビーで思い思いに言葉交わしている人々がいた。幅が広く長いベンチや、カフェのようなテーブルと椅子があり、ここでは、男子中学生が談笑していたり、少し遅い弁当を食べている者がいたりした。ここで友人の解説が入る。「ここは、しゃべってもいいスペースだ。休憩したり、飲食したり、あと便利なのはここに来れば友達同士で勉強を教え合えることだな。集団自習室で人に勉強を教えようとする」と解説の音が部屋に響いて周りに迷惑だから。奥にはお座敷もあって、人がいないときだと畳の上で寝そべってる奴もいたぞ。勉強の休憩中のリラクスペース、飲食スペース、館内ですべても喋りたいときに使うスペース、なんでもありだというのが。この空間強いな。

その後、彼と四方の壁に沿って一階の空間中央を取り囲むように設置されている緩いスロープを使って二階へ上がった。スロープを登っているときに車椅子のおじさんとすれ違った。ユニバーサルデザインというやつかと僕は学校で習ったことを思い出す。階段の代わりにスロープが設置されていて、誰にでも使い易い。エレベーターもあるようだが、この時期に、このコロナ禍で、狭い空間に複数人で閉じ込められるのは誰でも好ましいとは思わないだろう。そして、四方の壁に沿ってずっと歩くと一階の壁に貼られた掲示物が全部見られることに気づく。これは宣伝効果上がるに違いない。誰にでも、それが営業マンでも使い易いスロープのようだ。

二階へ着くと、どうやら二階から本が置いてある本来の図書館のようで、階が変われば一階の便利なスペースの話は聞こえなくなった。二階を見渡して、やけに解放感があると思えば、内装はヨーロッパの図書館のように二階から三階は吹き抜けのようになっていて(何というか、三階部分がベランダのようになっていて)、天井まで届く本棚が特徴だ。日本では珍しい、お洒落だと思いつつ。だけど、ユニバーサルデザインじゃないのかと友人に聞いてみると、彼は横にあった蔵書検索機を指差す。「これは、ただの蔵書検索機じゃない。普通に本の検索もできるが、蔵書検索トップページに本の分類の一覧があるぞ。日本十進分類法って言うらしいんだが、ほら、0で総記みたいな。この中の自分の読みたい本の分類をタップすると、だ。」そう言って彼は「9文学」をタップする。するとさらに細かく分類され、「91日本文学」をタップすると本の背表紙がずらっと並んだページがでてきた。電子パネル型自販機の飲料の画像が全て本の背表紙になったような感じ。「これぞ、電子本棚だな。」と彼は言って画面をスライドして本棚を左から右へ進めて、たくさんの背表紙が画面を過ぎていくのを眺めた。彼は課題図書になっていた漱石の「坊っちゃん」の背表紙を見つけてタップし、次に映った画面の「資料を印刷」をタップ。蔵書検索機からでてきたレシートを受け取り、「これを持ってそのカウンターの司書さんのところに行けば、司書さんが代わりにこのたっかい本棚からレシートにある本を取ってきてくれるって寸法さ。」と笑ってみせた。確かにこれならば誰でも本棚の利用ができる。また、こうして本棚が壁一面に天井まで広がっているため、二階中央には本棚が立っておらず、三階、四階へと続くスロープが一階から二階へ来たときのものより小刻みにその空いた二階中央のスペースでぐるぐる巻いていた(段のない傾斜が緩めの螺旋階段みたいなもの)。そうして、僕はもう一度これまた広い図書館を見渡すのだった。

すると、「足もと見てみよう。」と友人が僕の袖を揺る。目をやってみると床の一部がガラス張りになっていることに気づく。幅50cmほどの道のようになったガラス張りのそれは館内の四方八方に延びていっているようだった。そして、僕はガラスの下に道路脇のどろろのような空間があり、そこを水が流れていることに驚く。先程まで気がつかなかったが流水のせせらぎまでがしっかり聞こえてくる。「すごいだろ。どうしてこんなんかになってるか、お前分かるか。勉強が好きなお前なら分かるよなあ。」彼がにやにやする。そんな彼を見て、少し腹立つなコイツと思いつつ、ちょっと考えてみる。流水音は……聞いてると川にいたみたいだな。川の音。あっ、自然音といえば。最近じゃ有名な話だ。「自然音はリラックス効果がある。勉強中に流れていると集中力が上がるらしいじゃないか。」そう言って、「このガラス張りの川の理由はこんなもんじゃないか。」と、自信満々のや顔で友人に返す。「ご名答。」と彼は吹き、「そう、この川は閲覧席の足もとや、四階にある集団自習室の席の下なんかを重点的に流れてる。無音より、自然音がしていた方が勉強はかどるっていう人もいるからな。勿論流れてない席もあるけど。」

とうとう僕は本命の自習室に案内されたが、集団自習室には机中央が板で隔てられた対面式で座れる机が並んでいた。集団自習室の向かい側の部屋は四階に保存されてあると友人が言っていた貴重な資料の保管庫である。彼が言ったように自習室の席の下にはガラス張りの川が流れている。さて、早速自然音の中で勉強してみるかと席に腰掛けた。そして、鞆から勉強道具を取り出して机にノートを広げると、真っ白なノートが緑に染まった。えっ、と思って友人を振り向くと、彼は口元に笑みを浮かべて天井を見ていた。僕も天井を仰いだ。天窓から光が差し込んでいる。そして、天窓の外には緑のカーテンが。葉を通してきた光が僕のノートの上でゆらゆらと葉の形を残してアートを創る。葉脈を型どった緑インクのはんこがノートにわたと押されたみたいだった。「森にいたい。」自習室にいるにも関わらず、思わず言葉が漏れた。葉が揺らぎ、美しい光が木漏れ日のように淡くそそぎ込み、そして川の音がする。人は自然ともあることを思い出させる、そんな空間。母なる自然に抱かれて、遂に僕は新図書館の机に向かった。 終

追記

- ・床を流れるガラス張りの川だが、その後トイレなどで使用される上水が流れている設定である。横浜の老朽化した水道管の整備工事が困難であるというようなニュースがあったが、今後長きに渡り使用される図書館で、床のすぐ下を上水管が流れていれば、管理が楽なのではないか。
- ・出生前診断で胎児がダウン症かどうか判る時代になり、胎児が障害をもっているかと判ったとき、中絶を選択する人が八割という今の時代。将来、障害に対して人々が寛容でなくなる可能性が指摘される。図書館で点字の学習や手話による読み聞かせのようなイベントが開かれるときっとみんなが楽しい世界に近づくのではないかと思う。
- ・小説中の蔵書検索機を図書館玄関に大量に配置し、司書さんが持つてくるようなアナログでなくても良い、図書館に入らずとも本を借りられるシステムがあれば、館内は混雑しない。